



九州大学のオンライン授業に関する学生アンケート（春学期）結果について

九州大学では、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言を受けて、春学期のすべての講義をオンラインでの遠隔授業として実施しました。そこで、春学期に実施中の本学におけるオンライン授業の実態を迅速に把握し、夏学期以降の授業形態や内容、教員や学生に対する支援策などを検討するため、全学の学部学生と大学院生を対象にアンケート調査を実施したところ、4,835名の学生から回答を得ました。

6月上旬のオンライン授業の受講場所を尋ねたところ、回答を寄せた1年生のうち約4割が福岡県外、もしくは、日本国外で受講中であることがわかりました（表1）。これは、新入生の多くは伊都キャンパス近隣の通学圏には居らずに、自宅等で生活していることを意味し、キャンパスでの授業再開には転居の時間を要することが明らかとなりました。

また、オンライン授業を受けたことに対する感想として、全体では、オンライン授業が対面授業を「代替できていた」とする回答が「できていなかった」とする回答の2倍以上であり、概ねオンライン授業の受け止められ方は良好であると思われました。

詳しく結果をみると、オンライン授業が従来型の教室における対面授業を「代替できていた」とする割合は、新1年生と比較して対面授業を体験している2～4年生の方が倍以上多く、本学で実施されたオンライン授業は好意的に学生に受け取られていることがわかりました（図1）。一方で、コロナ禍のために、未だキャンパスでの授業を体験していない新1年生にとっては、オンライン授業の評価は難しく、2～4年生よりも教室での対面型を望んでいることがわかりました。

また、オンライン授業を受けた感想として、「自分のペースで学習できた」、「大きな問題なく授業に集中できた」という肯定的な声が多く聞かれたものの、一方で、「目の疲れ、腰の痛みなどの症状が出た」、「自分の周りの環境が気を散らした」という回答も多く見られました（図2）。

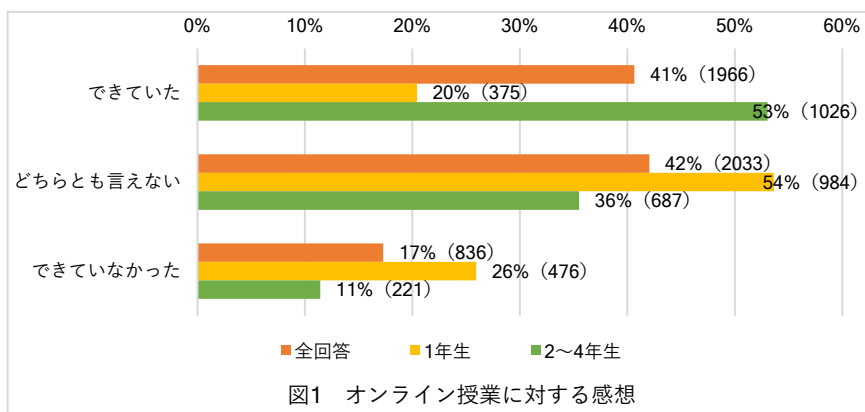
これらの問題を改善するため、本学では、ワーキンググループを立ち上げ、従来の対面授業を含め、新型コロナウイルス感染症収束後を見据えたオンライン授業等の位置付け、オンライン授業を実施する際の方針や留意点、オンライン授業の活用方法など、今後の授業をどのように運営および改善していくかの検討に取り組んでいます。

表1 学部新1年生のオンライン授業の受講場所（6月上旬）

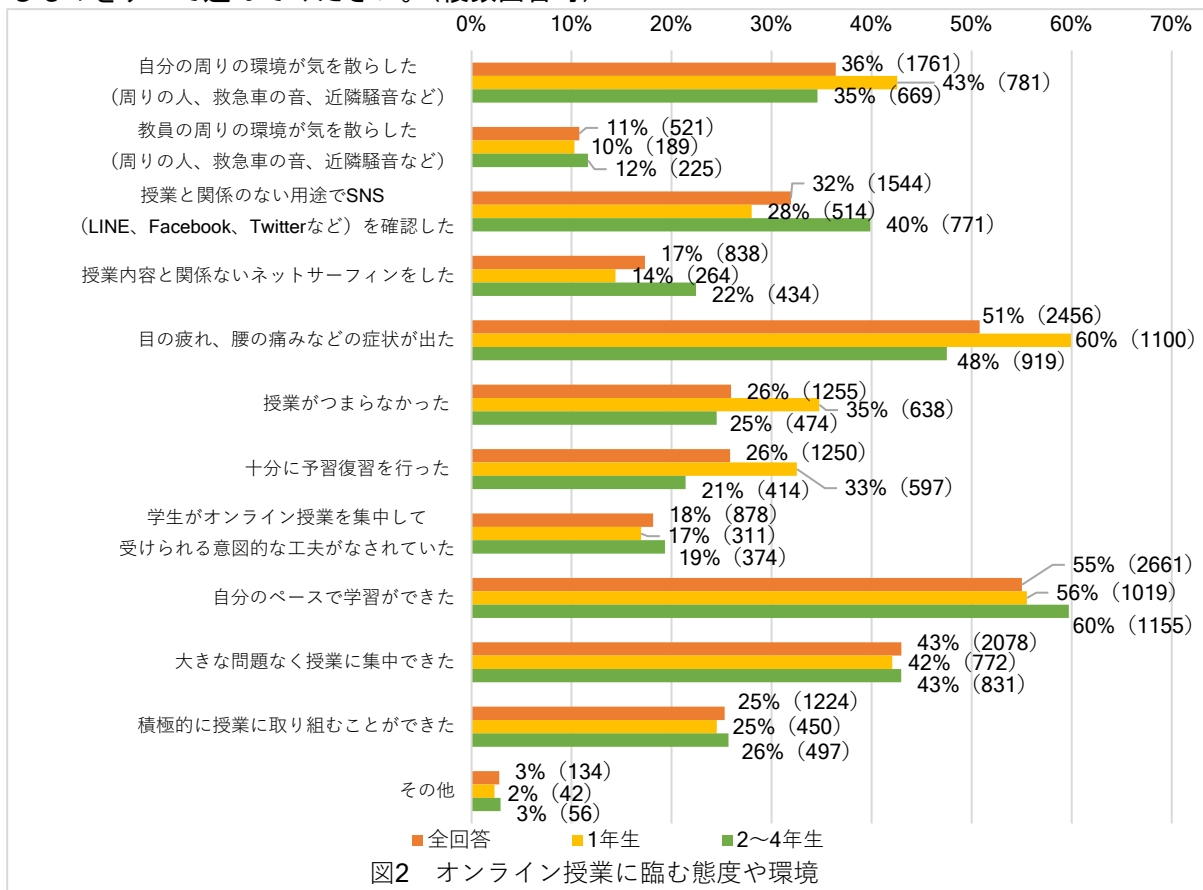
受講場所等	該当人数（名）
福岡県内	1,169
福岡県外（一部受講を含む）	715
日本国外（一部受講を含む）	16

→ 731名（新入生回答者の約4割）が県外・国外でオンライン授業を受講中

<質問>春学期授業期間中に受けたオンライン授業は対面授業を代替できていたと思いますか。



<質問>オンライン授業を受講中に感じたことや、授業態度に関して、以下の各項目に当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)



【お問い合わせ】 九州大学 教育改革推進本部

TEL : 092-802-5873

Mail : innovation@ueii.kyushu-u.ac.jp

【別紙】

令和2年度 学生生活およびオンライン授業に関する

アンケート調査結果報告（オンライン授業パート）

2020年8月11日

九州大学教育改革推進本部

1. 調査目的

新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言を受けて、九州大学では、春学期のすべての講義をオンラインでの遠隔授業として実施した。そこで、本学におけるオンライン授業の実態を把握し、春学期以降の授業形態や内容、教員や学生に対する支援策などを検討するため、全学の学部学生と大学院生を対象にアンケート調査を6月上旬に実施した。以下、本アンケート調査結果の概要を「全学生に対する調査分析」及び「学部新入生（1年生）と上級生（1年生と2～4年生）の比較調査分析」に分けて示す。

2. 全学生に対する調査および分析

- 調査対象： 在学生 4,835 名（学部生 3,850 名、大学院生 985 名）
- オンライン授業に対する感想【図1】：オンライン授業が対面授業を「代替できていた」とする回答が「できていなかった」とする回答の2倍以上であった（41%対17%）。
- オンライン授業に臨む態度・環境【図2】：「自分のペースで集中できた」（55%）、「大きな問題なく授業に集中できた」（43%）という肯定的な側面も見られた一方、「目の疲れ、腰の痛みなどの症状が出た」（51%）、「自分の周りの環境が気を散らした」（36%）、「授業と関係のない用途でSNSを確認した」（32%）といった受講上の問題も見受けられた。
- 大学側からのサポート：概して良い評価を受けた（マニュアル、お問い合わせ対応など大学側からのサポート【図3】に対して満足・やや満足計53%、やや不満・不満計10%、留学生に対する日本語以外の言語での情報提供【図4】に対して満足・やや満足計56%、やや不満・不満計7%）。
- オンライン授業の授業形式【図5】：リアルタイム配信が95%、1人で課題に取り組む（88%）、教材を参照しながら音声を聞く（73%）などが多い一方、グループに分かれて課題に取り組む形式を経験した学生は34%にとどまった。

- 学習に関するコミュニケーション：概して良い評価を受けたが（対教員【図 6】：満足・やや満足計 45%、やや不満・不満計 15%、対他受講生【図 7】：満足・やや満足計 28%、やや不満・不満計 19%）、他の受講生とのコミュニケーションに関しては不満の割合が 2 割に近く、またコミュニケーションを全くとらなかった学生が対教員 8%、対他の受講生 20%で少ないことを確認した。
- コロナ後のオンライン授業【図 8・9】：実験・実習・実技科目を除き、コロナウイルス事態収束後にも一部の授業をオンライン授業形式で行って欲しいという学生が全体の 63%を占めた。それに反対する学生は、全体の 24%であった。また、その理由としては、科目によってはオンライン授業で十分に学習できるという声が多かった（94%）。

3. 学部新入生（1 年生）と上級生（2~4 年生）の比較調査および分析

- 調査対象：学部新入生 1,835 名、上級生（2~4 年生）1,934 名
- 対面との比較：オンライン授業を「代替できていた」とする割合は上級生の方が多い（20%対 53%）【図 1】
- 健康：「目の疲れ、腰の痛みなどの症状」を訴えるのは 1 年生の方が多い（60%対 48%）【図 2】
- オンライン授業の継続：「コロナウイルス事態収束後にも一部の授業をオンラインで行って欲しいと思いますか」に、肯定的な割合は上級生の方が多い（48%対 73%）【図 8】
- 受講科目数：1 年生の方が多い（週 10 科目以上の割合が 88%対 50%）【図 10】
- 課題の量：「多かった」「少し多かった」と感じている割合が 1 年生の方が多い（73%対 56%）【図 11】
- 1 科目の授業あたりオンライン化してほしい度合い：「60%~100%」を選んだ学生の割合は上級生の方が多く（24%対 49%）、「0~40%」はその逆（57%対 29%）、「50%」はほぼ同じだった（20%対 21%）【図 12】
- オンライン授業の受講場所（表 1）：1 年生の回答者のうち約 4 割が福岡県外、日本国外でオンライン授業を受講中であった。

○ 図表は、参考「各分析に関するデータ」をご参照下さい。

4. まとめ

- 九州大学の学部1年生は、6月上旬には約4割がキャンパス近郊に引っ越しを行っていませんでした。今後、どのタイミングで移動を呼びかけるかが、一つの課題である。
- オンライン授業に対する感想：オンライン授業が対面授業を「代替できていた」とする回答が「できていなかった」とする回答の2倍以上であった（41%対17%）。
- 自由記述より、「授業のスピード」「授業中の指示語の使い方」「授業中のプライバシーに対する憂い」「評価方法に関する不安」「孤立した学習環境」などオンライン授業に関して改善を強く望む学生の声が見受けられた。一方、「コロナ事態後の授業形式」に関してオンライン授業を続けてほしいという声もあった。
- 同時に実施した「学生生活に関するアンケート」との関係性についても検討中。学生の精神的な健康状態とオンライン授業の関係性に関して示唆が得られる可能性。
- 九州大学では、「授業等の在り方検討WG」を設置し、従来の対面授業を含め、新型コロナウイルス感染症収束後を見据えたオンライン授業等の位置付け、オンライン授業を実施する際の方針や留意点、オンライン授業の活用方法など、今後の授業をどのように運営および改善していくかの検討を行う。

以上

九州大学教育改革推進本部（企画・評価部門*）

丸野俊一、野瀬 健*、長沼祥太郎*、鄭 漢模*、淵上佑子*

アンケート実施協力

九州大学キャンパスライフ健康支援センター

九州大学教育改革推進本部 ラーニングアナリティクス部門

九州大学基幹教育院ラーニングアナリティクスセンターM2B 事務局

【参考】

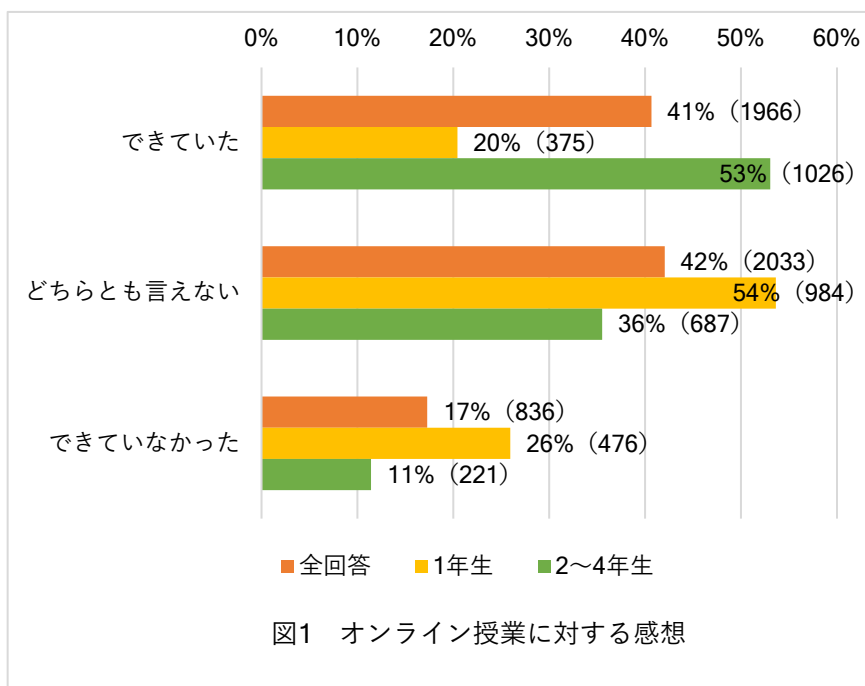
各分析に関するデータ

「全学生に対する調査分析」に関するデータ・解説→[全](#)

「学部新入生（1年生）と上級生（2~4年生）の比較調査分析」に関するデータ・解説→[新・上](#)

【オンライン授業に対する感想】→[全](#)、[新・上](#)

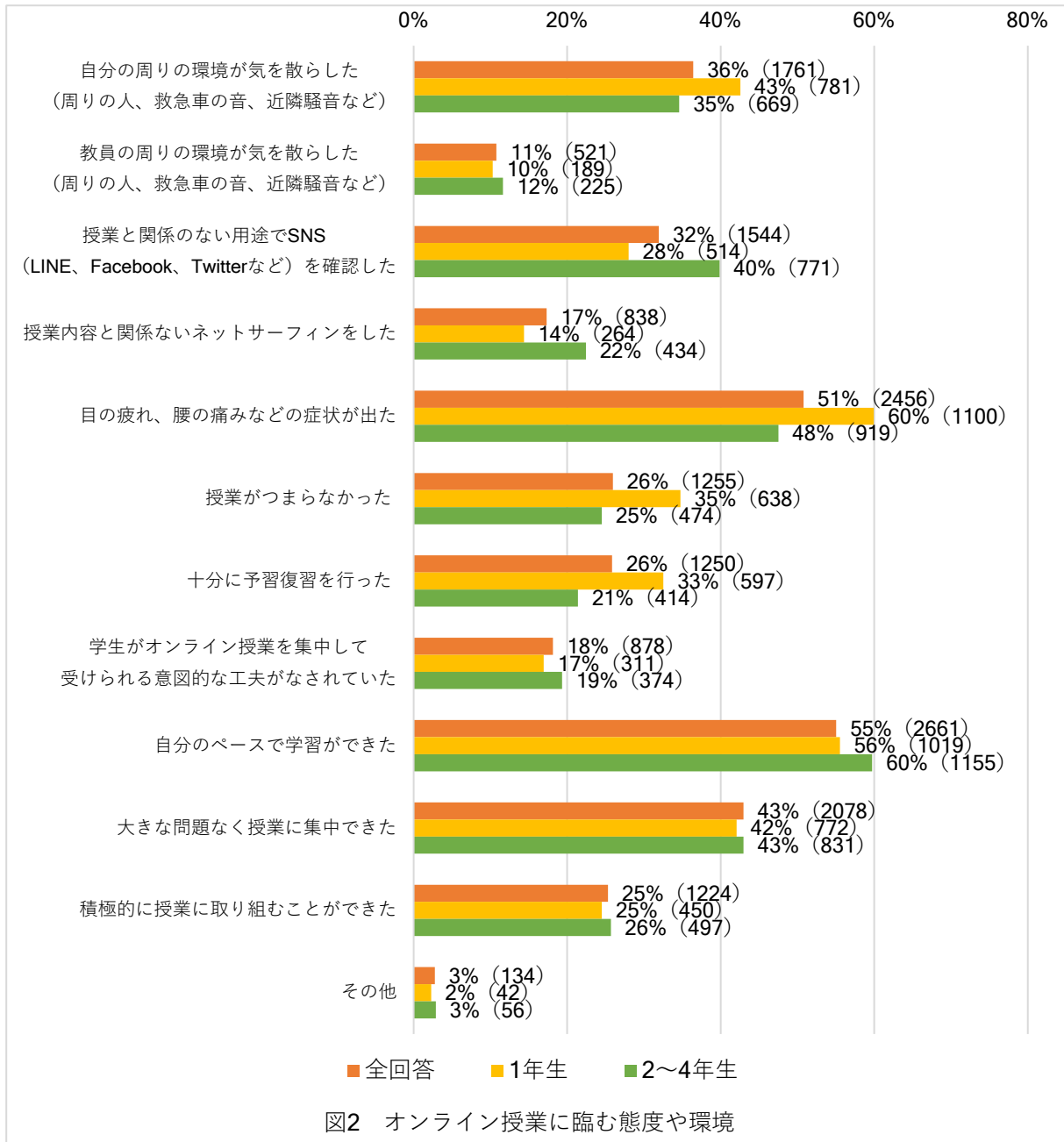
<質問>春学期授業期間中に受けたオンライン授業は対面授業を代替できていたと思いますか。



[新・上](#) 解説：オンライン授業と対面授業の比較：オンライン授業を「代替できていた」とする割合は上級生の方が多かった（20% 対 53%）

【オンライン授業に臨む態度・環境】→全、新・上

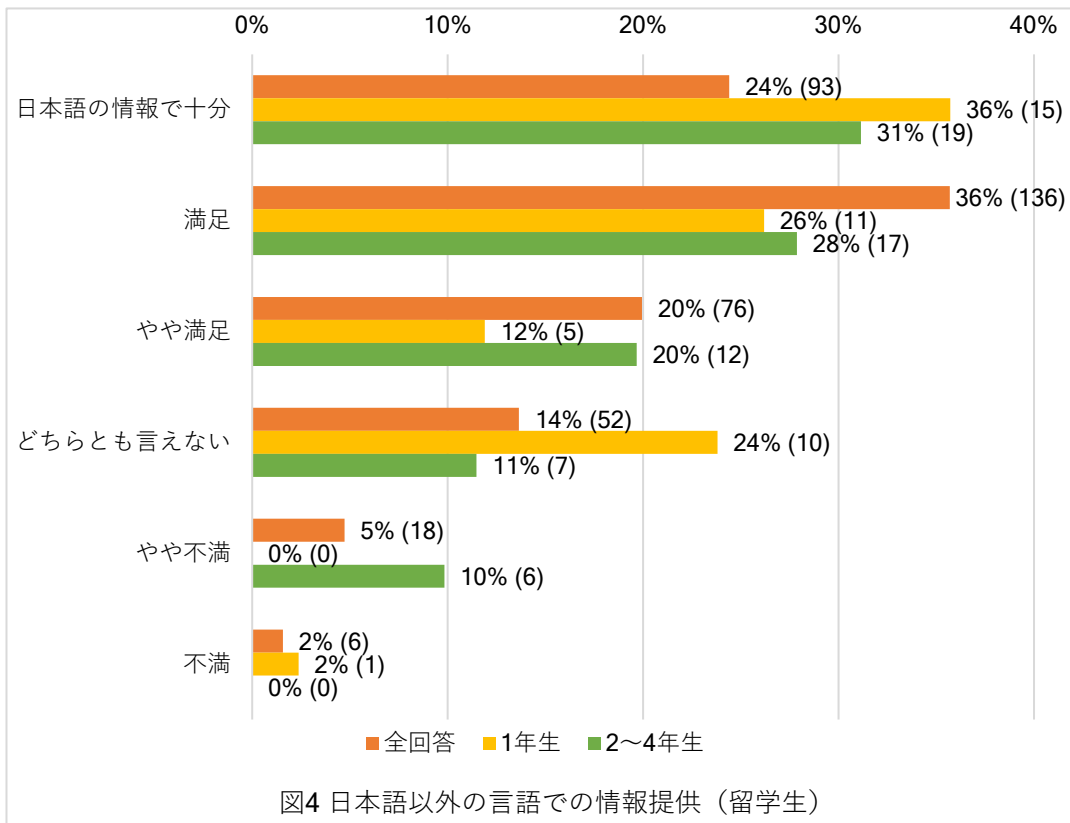
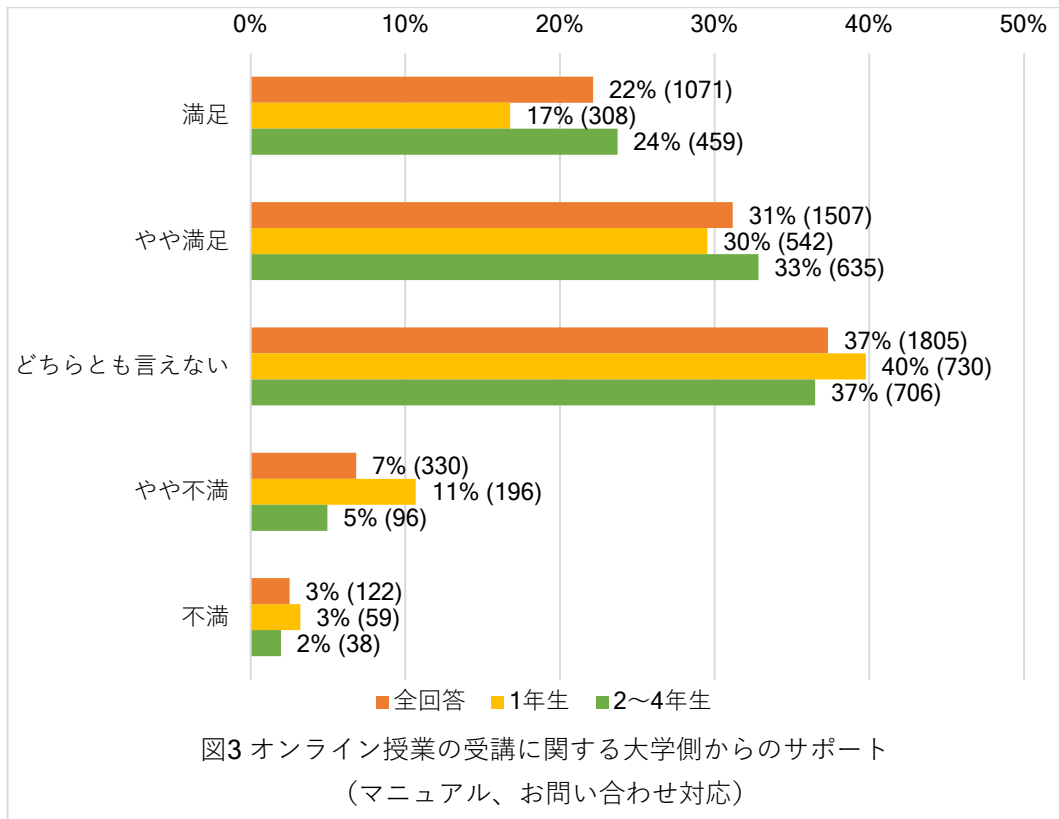
<質問>オンライン授業を受講中に感じたことや、授業態度に関して、以下の各項目に当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)



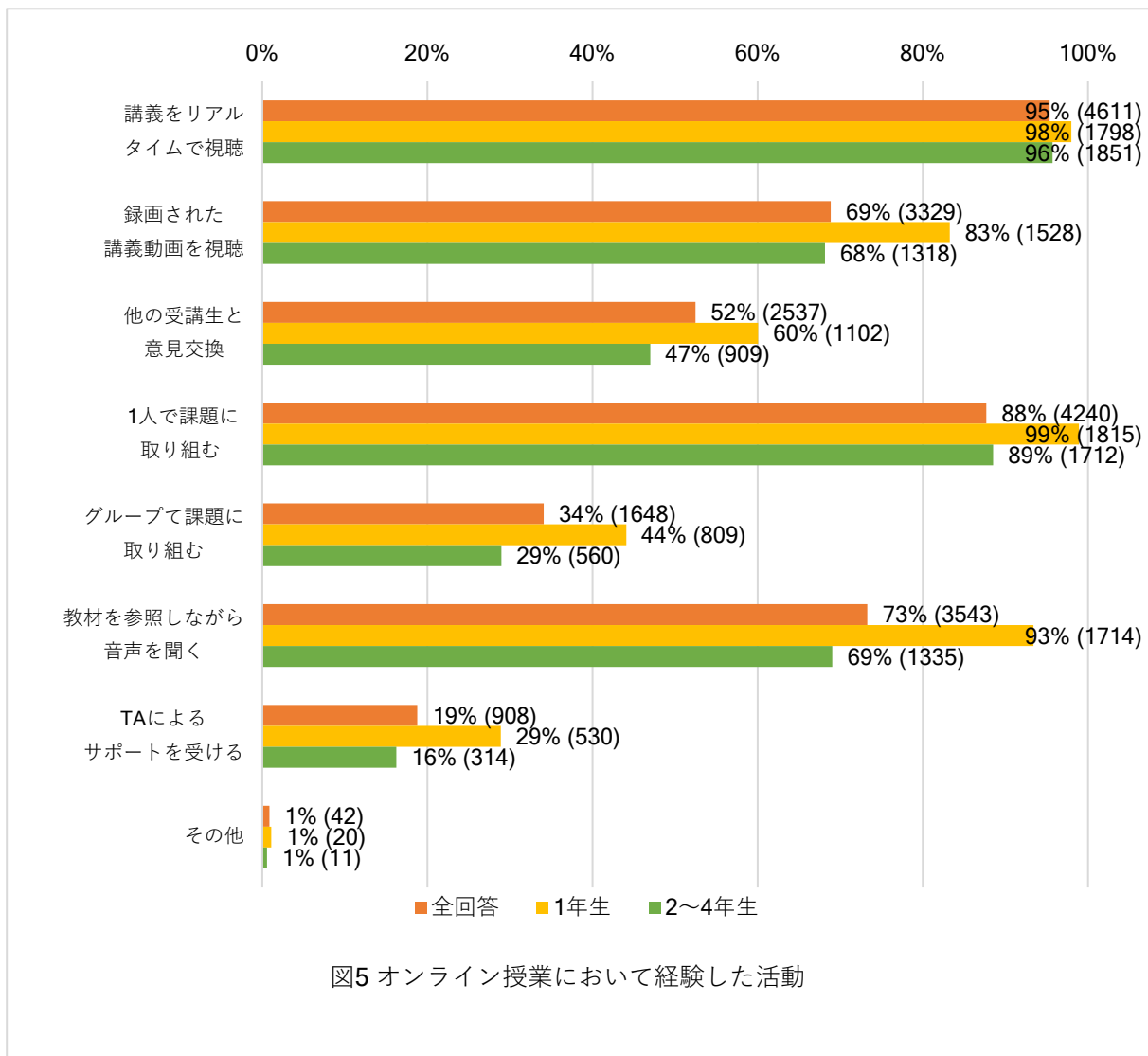
全 解説：「自分のペースで学習ができた」に半数以上が同意している。一方、「自分の周りの環境が気を散らした」「授業と関係ない用途で SNS を確認した」には3割以上が該当。

新・上 解説：「目の疲れ、腰の痛みなどの症状」を訴えるのは1年生の方が多かった（60% 対 48%）。

【大学側からのサポート】 →全

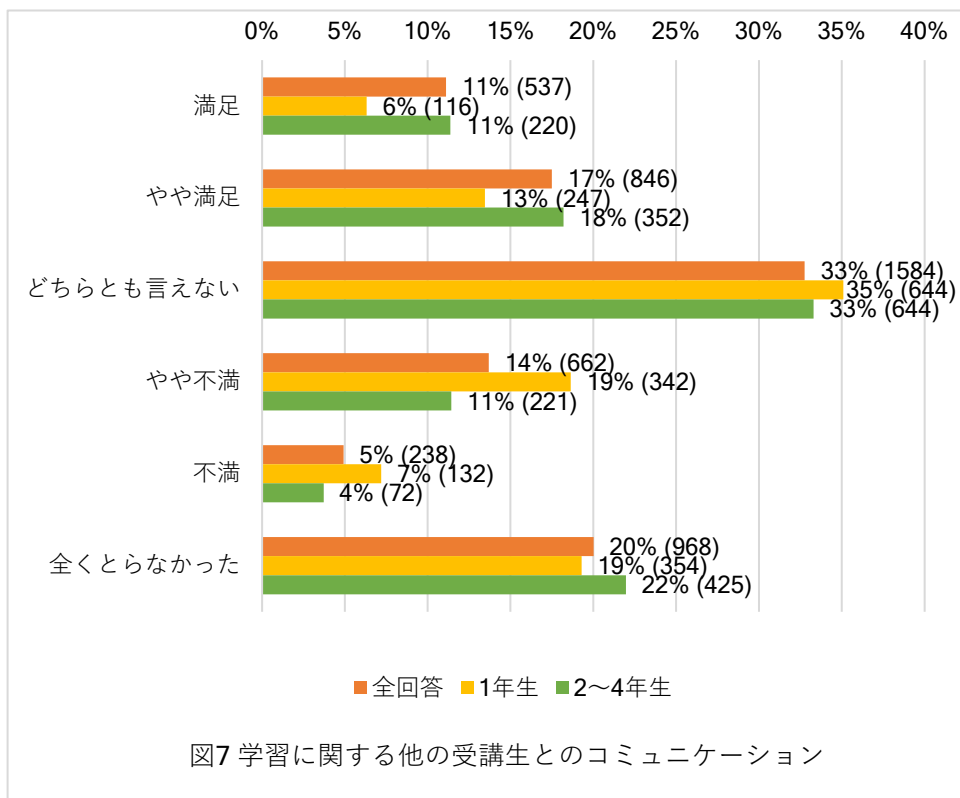
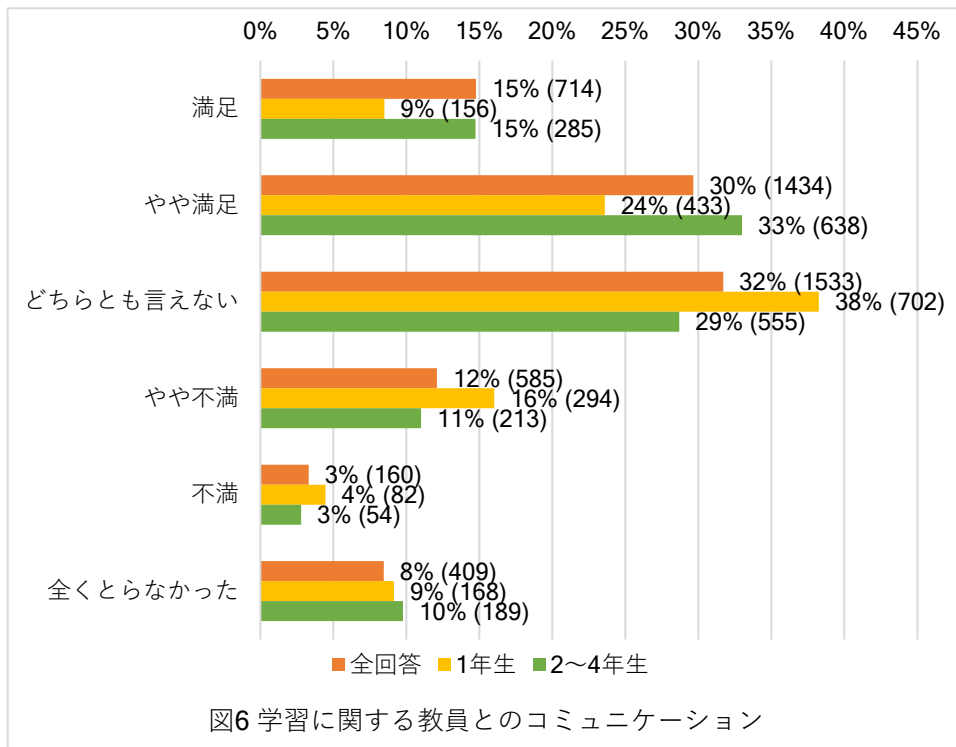


【授業形式】 →全



全 解説：教員の講義をリアルタイム形式で受講したり、事前に録画された講義を視聴するという形式、また個人で課題に取り組む形式が多い。一方で、グループワークや他の受講生との意見交換に関しては、経験した学生の割合が比較的小さい。

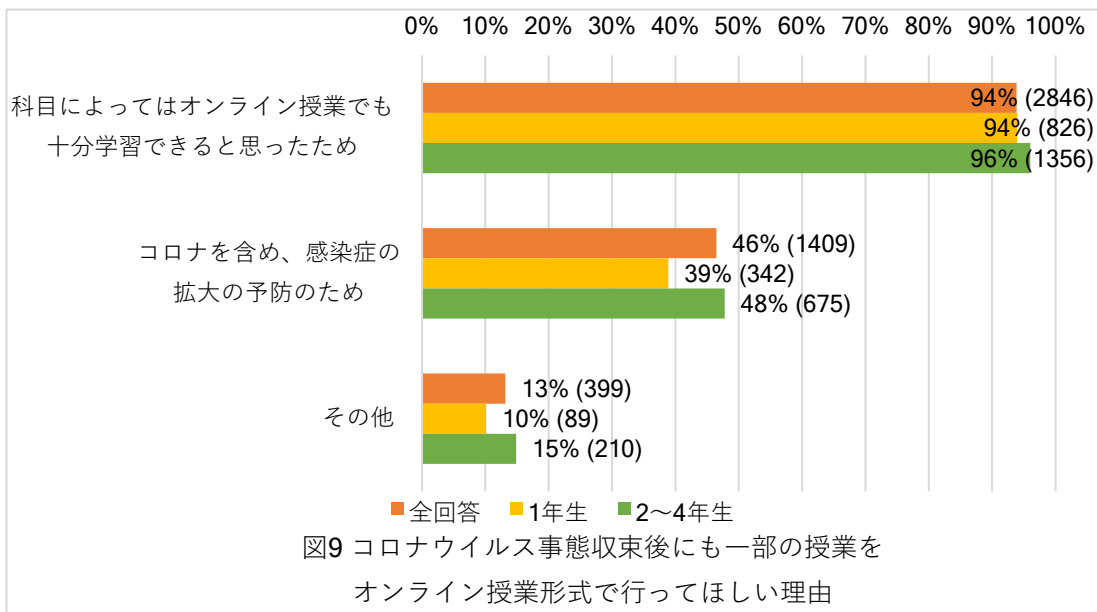
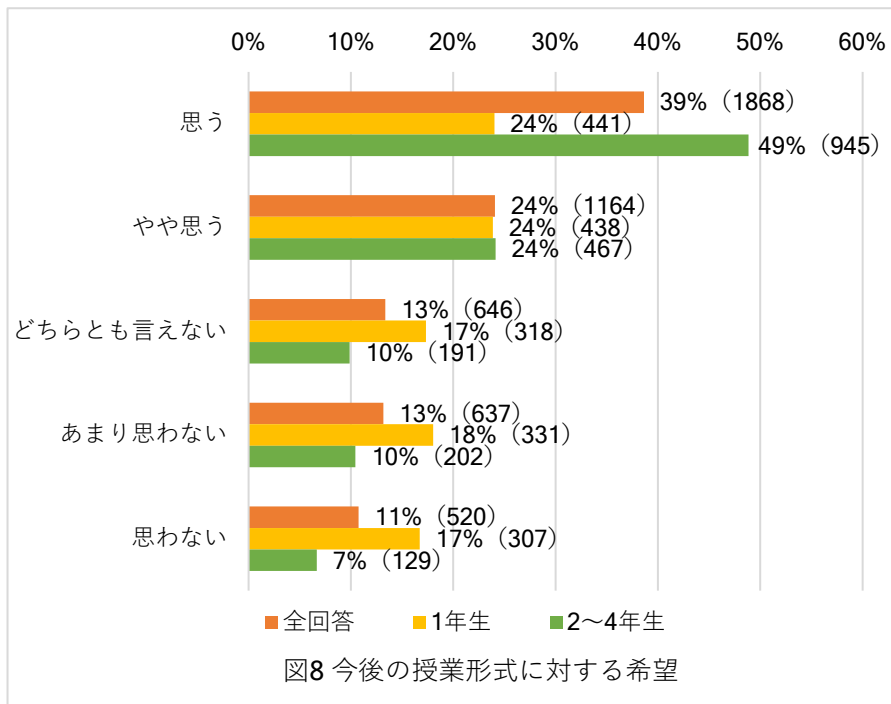
【学習に関するコミュニケーション】 →全



全 解説：満足・やや満足している割合が、対教員では5割弱、対他の受講生では3割弱にとどまっている。

【コロナウイルス事態収束後】→全、新・上

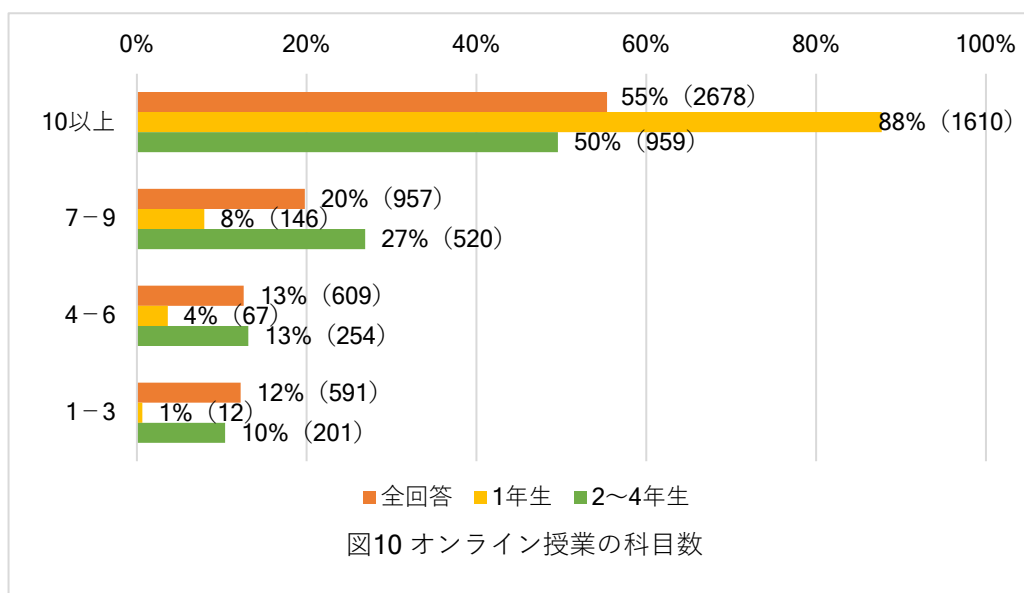
<質問>コロナウイルス事態収束後にも一部の授業をオンライン授業形式で行ってほしいと思いますか。



全 解説：コロナウイルス事態収束後にも一部の授業をオンライン授業形式で行って欲しいと思う割合が6割以上であった。その理由としては、「科目によってはオンライン授業でも十分学習できると思ったため」が9割以上であった。

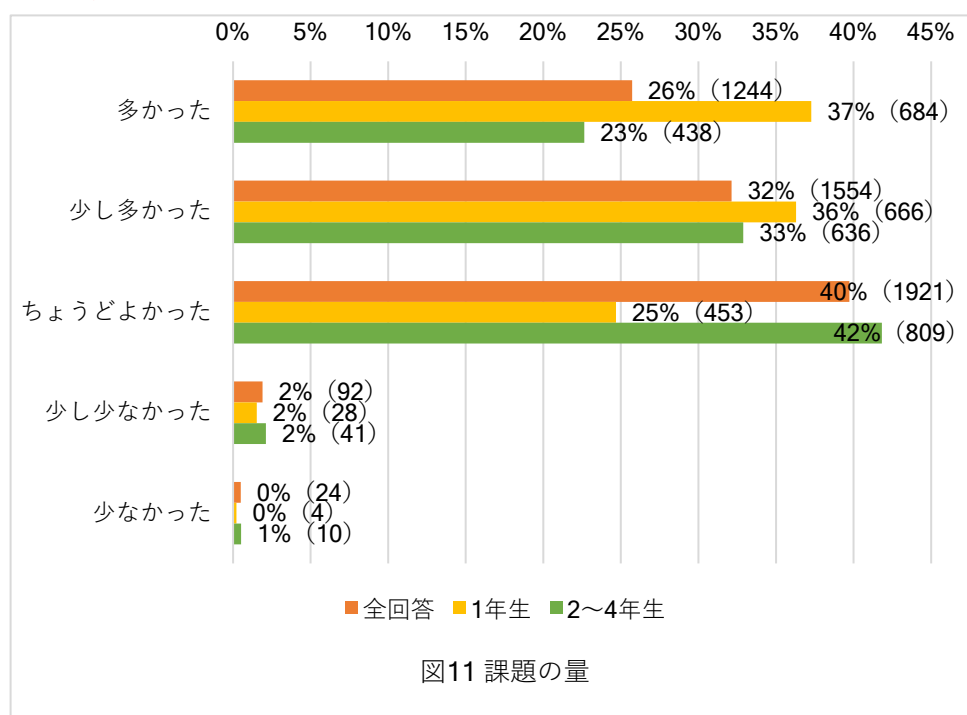
新・上 解説：オンライン授業の継続：「コロナウイルス事態収束後にも一部の授業をオンラインで行って欲しいと思いますか」に、肯定的な割合は上級生の方が多かった（48% 対 73%）

【オンライン授業の科目数】→新・上



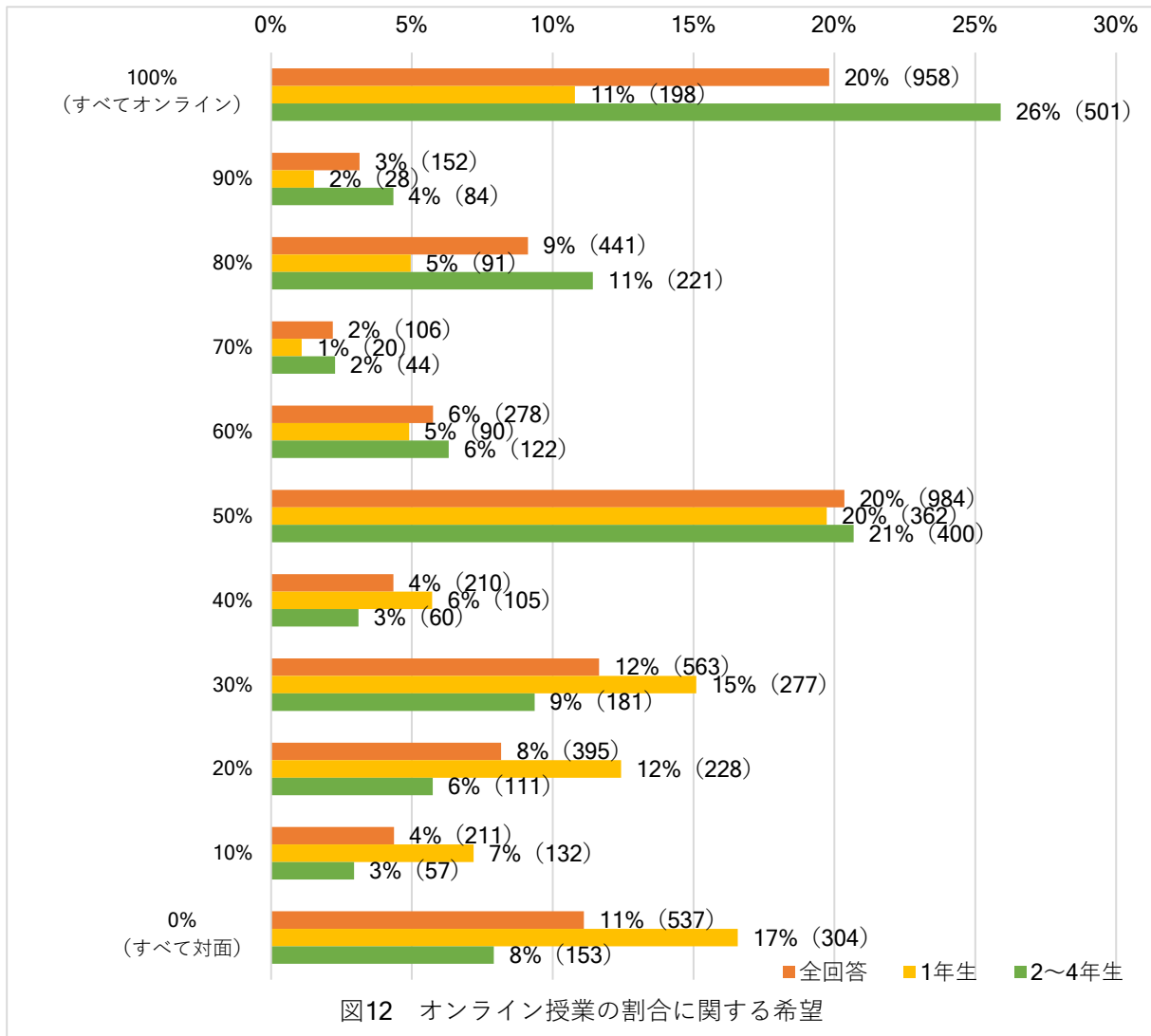
新・上 解説：1年生（新入生＝基幹教育）の受講科目数は、2～4年生と比べて多いことが分かった。これは、前期に多くの科目の単位を求める例年の傾向と一致すると思われた。

【課題の量】 → **新・上**



新・上 解説：課題の量について、「多かった」「少し多かった」と感じている割合が1年生の方が2～4年生より多かった（73%対56%）。また、2～4年生では、「ちょうど良かった」とする回答が、最も多かった。

【オンライン授業の割合に関する希望（1科目あたり）】 → **新・上**



新・上 解説：1科目の授業あたりオンライン化してほしい割合：60%~100%を選んだ学生の割合は上級生の方が多く（24% 対 49%）、0~40%はその逆（57% 対 29%）、50%はほぼ同じだった（20% 対 21%）

【オンライン授業の受講場所】→**新・上**

<質問>（学部1年生）春学期授業期間中にオンライン授業を受けた場所はどこですか。

表1 オンライン授業の受講場所（1年生）

受講場所等（一部受講を含む）	該当人数（名）
<u>福岡県内</u>	1,169
<u>福岡県外</u> （一部受講を含む）	715
<u>日本国外</u> （一部受講を含む）	16

→ 731名（新生回答者の約4割）が県外・国外でオンライン授業を受講中。この調査項目のみ同時実施された学生生活アンケートにおいてデータを収集した。